

職員による自己評価

A環境面

- ・スペースの確保は、適切だと思っている職員が大半である。
- ・職員配置についてはご利用児が到着の時の人で足りない意見があったが、概ね適切であると答えた方が多い。
- ・バリアフリー化については、1階のトイレの不自由さを感じる職員や段差があるのでつまずきやすいと意見があった。

B児童への支援内容

- ・全体的に良いと感じている。
- ・プログラムの工夫について固定されていると感じている職員はいなかった。

C関係機関との連携

- ・学校などの関係機関に対しての連携は概ねできている。
- ・卒業後に利用する障害福祉サービス事業所等に支援の内容等の情報を提供している。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者に活動概要や連絡体制等の情報を発信していると感じている職員が多い。
- ・父母の会等については開催していない。

E非常対応

- ・マニュアルは周知されている。
- ・職員向け研修の機会は概ね確保している。
- ・避難訓練をおこなっている。
- ・ヒヤリハット事例集は作成していないが、事故報告書を作成したり、日々振り返りをしたりしている。

保護者による評価

A環境面

- ・職員配置数や職員配置、専門性は適切であると思っている方が大半だった。
- ・バリアフリー化について“どちらともいえない”という意見もあった。

B児童への支援内容

- ・個別支援計画はニーズや課題が分析された計画がされていると思っている方がほとんどだった。
- ・活動を工夫していると思っている人が多い。
- ・放課後児童クラブや児童館など交流を希望されている方は少なく、“どちらでもない”“希望しない”と答えた方のほうが多い。

C事業所からの情報発信

- ・支援内容、利用者負担等について丁寧な説明であると答えた方がほとんどである。
- ・日ごろから子供の状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解ができていると思った方ほとんどである。
- ・定期的な会報やホームページを自己評価の結果や連絡等を発信されていると思っている人がほとんどである。
- ・父母の会などは“どちらでもない”“希望しない”が多い。
- ・非常時のマニュアルや避難訓練について概ね周知されている。
- ・こどもは通所を楽しみにしていると答えた方がほとんどだった。

事業所内での分析

【共通点】

- ・児童の支援内容についてよい評価である。
- ・保護者に活動概要や支援内容など説明について評価が高い。
- ・非常対応について、避難訓練やマニュアルの整備がなされている。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・保護者の説明等についての評価が高い。
- ・職員間のミーティング、打ち合わせ、振り返りをおこなっている。
- ・支援内容について、保護者から評価されている。
- ・職員は支援について意識が高い。
- ・子供の状況を保護者と伝え合い、発達状況や課題について支援者と保護者は共通理解ができている。

事業所の改善点

- ・緊急時対応マニュアルや月間の活動予定表など玄関などに置き公表はしているが、見る余裕がないなどの意見があり他の方法でも周知を検討する。

事業所の改善への取り組み

- ・緊急時対応マニュアルや月間予定表などホームページなどを利用して周知する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・支援内容について支援者と保護者の認識は共通であり、今後も活動を工夫しながら支援をおこなっていきたい。
- ・環境などの改善を踏まえより良い支援ができるよう努力していきたい。
- ・今後も事業所の設備等、建物の全体の環境について改善していきたい。
- ・保護者のアンケートの回収率は、2017年が73.1%、2018年が70.5%、2019年は67%、2020年は86.6%、2021年度は83.3%だった。来年以降も回収率が下がらないようお願いをしたい。

事業所名 キッズサポート・きらら

担当者 大堀 竜哉